国内海外 引越の日通
通 11-3583-3882

São Paulo-Shimbun

Mituto Mizumoto 1914 - 1991

São Paulo, sábado, 8 de Agosto de 2015 - Nº 15.705 - ANO 69 saopauloshimbun.com R$ 3,50

TUNIBRA TRAVEL
Viagens para o Japão
(11) 3346-8200 www.tunibra.com.br
Pça da Liberdade, 170 - Liberdade - São Paulo

佐賀県文化協会 創立60周年記念式典

次の50年視野に「還暦」祝い
日伯の懸け橋的人材の育成を

ブラジル佐賀県文化協会（西山実会長）創立60周年記念式典が、2日午前10時からサンパウロ（聖）市アクリマソン区の同県人会館で行われた。母県からは副島良彦副知事をはじめ、中倉政義県議会議長ら15人の慶祝団が訪れ、来場した会員約200人と共に節目の年を祝った。同協会は1946年に母体となる団体が発足し、55年に現在につながる全伯組織「在伯佐賀県人会」が誕生。66年には伯国慈善団体として登録され、81年に完成した同県人会館では剣道や薙刀などの武道を通じ、日系社会に貢献して来た。

式典は秀島正幸同県人会副会長の開会の辞に始まり、日伯国歌斉唱、先亡者への黙とうを行った。

式典には飯田茂在聖総領事館領事部長、野村アウレリオ聖市議、ウエダ・エドアルド聖市長代理、在アルゼンチン佐賀県人会の梅崎フラビア会長、本橋幹久県連会長、山下譲二文協第1副会長、尾西貞夫援協副会長が来賓として出席した。

西山会長が式典あいさつし、「会員、母県の多大な支援、協力、そして私たちを受け入れてくれたブラジル社会の親切さがあったからこそ今日の私たちがある。先人たちに感謝し、この先50年を視野に入れた県人会の活性化と永続の再起点にしたい。今後も日伯両国の懸け橋になるような人材を育成していきたい」と述べた。

副島副知事は「今までに4500人を超える本県出身者が海を渡り、過酷な労働条件や不慣れな環境の中でブラジル社会に貢献し発展に尽力してくれた。現在は『人を大切に。世界に誇れる佐賀作り』をテーマに県政を行っている。皆さんが『ふるさと佐賀県』を誇れるように世界に発信していく」と祝辞を述べた。

中倉県議会議長は「小学5年生の時に友人がブラジルへ移住し、別れの言葉を代表として読んだことを覚えている。当時はブラジルと聞いてもピンとこなかった。今回彼を県人会関係者に捜索してもらったが、既に故人となっていた。皆さんは筆舌に尽くしがたい苦労をし、ブラジル国家の一員として貢献をしている」と敬意を表した。

その後、飯田領事部長、ウエダ聖市長代理、本橋県連会長から祝辞、祝電披露、記念品の贈呈が行われた。

続いて歴代の県人会長4人が表彰され、江頭幸男顧問が代表して謝辞を述べた。また、井上清氏には日本との重要な仕事をしたことで特別感謝状が贈られ、秀島副会長が代理で受け取った。高齢者表彰では、95歳の松尾進蔵氏が代表して授与された。

佐賀県で研修した経験のある久保カチア氏は式典でポルトガル語の司会を務め、また留学生・技術研修生を代表し「これからも留学、研修制度を続けてほしい」とあいさつした。

最後に県歌「栄えの国から」を全員で合唱した。

祝賀会では、鏡割、ケーキカットの後、吉村幸之前県人会長の音頭で乾杯。会員らは県人会の60周年の誕生日を「パラベンス・パラ・ボセー」の大合唱で祝った。

西山会長（中央右）から副島副知事に贈呈された記念品

鏡割の後、乾杯する中倉県議長、副島副知事、西山会長、秀島副会長（左から）

ダンサーとサンバを踊った副島副知事（右から2番目）

婦人部と慶祝団が共に合唱した

祝辞

佐賀県知事 **山口祥義**

ブラジル佐賀県文化協会創立60周年を迎えられ、83万佐賀県民を代表してお祝い申し上げます。

今年は日本ブラジル外交関係樹立120周年及び戦後70周年の節目の年でもあります。このような年に協会創立60周年の記念式典が多数の皆様のご参加の中、盛大に開催されましたことを心よりお喜び申し上げます。

1822年、ブラジルが独立を果たした年に佐賀の八賢人の一人に数えられる島義勇は佐賀城下で生を受けました。彼は明治維新の頃に北海道に赴いて、札幌の開拓の指揮などで大きな働きをしました。寒さの厳しい北方の地における開拓は、苦労の連続であったようです。今では、札幌は人口190万人を超える大都市となり、島義勇は「北海道開拓の父」として、現地で多くの人に親しまれています。

しかしながら佐賀においては島義勇の功績を知る人は少なく、彼を顕彰しようとする動きはあまり盛んではないのが現状です。佐賀県の誇り、八賢人に挙げられるほどの大きな功績を残していることを思うと、誠に残念なことだと私は感じています。

1910年、希望を胸に渡伯された本県出身の15家族60名の方々を先駆けとして、戦前戦後を通じて4000名を超える本県出身の方々が海を渡られました。未開拓地の過酷な自然環境や労働環境、不慣れな言葉、文化風習の違いなど、それを克服するためのご苦労は、島義勇が感じたものにも匹敵するようなものであっただろうと思います。そのような状況にも関わらず、本県出身の方々がブラジル全土で日本人移住者に刺激を与え、ブラジルの発展に長らく貢献されてきたことは佐賀県民として大きな誇りです。

今回の記念式典に参加された皆様は、遠く海を越えても佐賀県人としての誇りを持ち、開拓者の方々の顕彰を続けておられます。ふるさと佐賀、船出の地に住む私たちは、そうした思いにしっかりと応えていかなくてはならないと強く感じています。

2015年7月、幕末から明治における日本の産業革命遺産の一つとして、「三重津海軍所跡」が、ユネスコの世界文化遺産に佐賀県内から初めて登録されました。これを機会に、佐賀に数多くある先人の貴重な遺産とその功績にあらためて光をあてることで地域の誇りを取り戻したいと私は考えます。島義勇も新天地へ向けて出航したこの三重津を再び船出の地として、佐賀の素晴らしさを世界に向けて発信していきます。

最後に、創立60周年という節目を契機にブラジル佐賀県文化協会が西山会長様を中心に一丸となって一層発展されますとともに、会員、そしてご家族の皆様のご活躍とご健勝、併せてブラジル国の繁栄を心から祈念して私の祝辞といたします。

あいさつ

ブラジル佐賀県文化協会
会長 **西山実**

このたびはブラジル佐賀県文化協会創立60周年記念式典にご出席いただき、誠に有難うございました。

式典に際しまして母県からは、副島良彦副県知事様、中倉政義議長様、県庁関係ご一行、並びに慶祝訪問団ご一行、並びに在サンパウロ日本国総領事館飯田茂領事部長様、並びに各界代表者各位のご臨席のもとに、県人会創立60周年記念式典を挙行できましたことは県人会一同の至上の喜びでございます。

ブラジル佐賀県人会は1955年に先輩諸氏の願望と熱意で設立され、その後、会員各位の長年にわたるご支援、同時に母県庁の多大なるご支援、ご協力そして私共を優しく受け入れてくれたブラジル社会の親切さがあったからこそ今日があるものと県人会員を代表しまして皆様に厚く御礼申し上げます。

県人会として還暦を迎えた60周年記念式典は、あらゆる面で意義ある節目の年にならねばなりません。

これまでの先人、先輩諸氏の功績に感謝しながら、これから先の10年、20年、そしてなお50年先の日伯両国の大切さを視野に入れた県人会の益々の活性化、永続への再起点になることを願います。

日系人150万人が在住する資源大国ブラジルと日本国はいろいろな分野で今後、関係深い間柄になることは間違いないと思われます。

県人会としましては、今後の日伯両国発展のための親善、友好、交流促進のための懸け橋となる県人子弟の人材育成に努めると共にブラジル社会に寄与できる県人会の存続に努力する覚悟でございます。

母県よりの慶祝団一行、そして県人会会員各位、ご来賓の皆様の益々のご健勝、ご多幸を祈念致します。

祝辞

佐賀県議会議長 **中倉政義**

ブラジル佐賀県文化協会が、創立60周年という大きな節目を迎えられましたことは誠にご同慶の至りであり、佐賀県議会を代表いたしまして心からお喜び申し上げます。

昭和36年3月、私が小学校5年生の時、当時机を並べていた友人、吉三郎君が一家でブラジルに渡ることとなり、クラスを代表してお別れの言葉を述べた事を鮮明に覚えています。

同じ年、佐賀県からは117名の方々がブラジルに渡られたと伺っていますが、当時の私としてはブラジルまでどの位の時間を要するのか地球儀を回してもピンとこず、またブラジルがどういう国なのかということさえ話を聞いてもよく理解できませんでした。

ブラジルに移住された郷土「佐賀」ご出身の皆様方は、故郷から遠く離れた風土異なるブラジルの大地で筆舌に尽くしがたい程の困難を克服され、今日、ブラジル社会の重要な一員として国家の発展に多大なご貢献、ご活躍されておられることは、まさに私どもの誇りとするところであり、ここに深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて近年、私たちには少子・超高齢化、人口減少問題など大変大きな課題が突きつけられており、特に人口減少問題では、全国で896の市区町村が消滅する危機にあるとされ、県内でも2市6町が「消滅可能性都市」として指摘されています。

こうした中、7月5日、佐賀市に所在する「三重津海軍所跡」が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録され、また来年は、日本磁器発祥の地有田では有田焼創業400年を迎え、佐賀市では19年ぶりとなる熱気球世界選手権大会が開催されます。

私たち県民は、自らの発想と創意工夫によってお客様を気持ちよくお迎えし、これから何度でも佐賀に足を運んでもらえるような地域ならではの取組みを一丸となって盛り上げるとともに、皆様の郷土「佐賀」をしっかりと守り、そして次の世代に引き継いでいかなければなりません。

県議会といたしましても、佐賀にしかない貴重な財産を活かしながら、山口知事とともに地方自治の両輪として郷土「佐賀」の発展に全力を尽くす所存です。

どうか、皆様方におかれましても、今後ともブラジル佐賀県文化協会の下で共に手を取り合い、力を合わせ、ブラジルの発展と祖国日本、郷土「佐賀」との文化交流並びに親善の絆の強化、促進にご尽力、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

ブラジル佐賀県文化協会60周年記念式典への参加という機会を与えていただきました関係者の皆様方に対しまして感謝申し上げますとともに、ブラジル佐賀県文化協会の一層のご発展、会員の皆様方のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げます。

祝 ブラジル佐賀県文化協会創立60周年
ASSOSIAÇÃO C.E.e B. SAGAKEN DO BRASIL FESTA COMEMORATIVA DE 60 ANOS

佐賀県祝典慶祝団
佐賀県副知事 副島良彦
佐賀県議会議長 中倉政義
副知事秘書 溝江賢太郎
県議会議長秘書 藤田豊
国際経済交流課課長 山中直之
国際経済交流課副課長 山津喜直
国際経済交流課主査 羽根大貴
他 民間慶祝団御一行 7名

ブラジル佐賀県文化協会 役員
顧問 江頭幸男 井上清 辻定男
会長 吉村幸之
第一副会長 西山実
第二副会長 秀島正幸
第三副会長 羽原誠二
第一会計 志田若代
第二会計 羽原誠二 大内ユキオ・アドリアノ
第一監査役 重松賢治
第二監査役 羽原ルミヤ
第三監査役 弘川百合子
財務管理 吉村幸之
第一書記 秀島正幸
第二書記 大久保エレーナ
婦人部長 吉村絹江ルッシア
各種催物 志田若代
スポーツ部長 羽原誠二
青年部 大久保ウンベルト
事務局長 長谷克枝
グアタパラ支部長 脇山俊吾
バルゼン・グランデ支部長 富田久雄
ロンドリーナ支部長 松尾進蔵